

令和 8 年度
北九州市立看護専門学校
一般入学試験

国 語 問 題 用 紙
(50 分)

<注意事項>

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 この問題冊子には、問題用紙が 17 ページまであります。
- 3 落丁・乱丁のある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
 - ① 受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄の数字をマークしてください。
 - ② 氏名欄に氏名・フリガナを記入してください。
- 5 問題冊子は回収します。

受 験 番 号

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～問8)に答えなさい。なお、設問の都合上、本文の段落に 1 ～ 23 の番号を付してある。
また、表記も改めたところがある。

1 最初に見ておきたいのは、真理の探究はもっとも重要なことというわけではない、という考え方です。真理について考えることがまったくの無駄というわけではないとしても、私たちにはもっと大事なことがあるのではないか。特に倫理において、遠くにあつて目に見えない絶対的な真理を探し求めるよりもまず、身の周りをよく見てみた方がよい。そうして、少なくともお互いが納得できる、という地点を目標とした方がよい、そういう考え方はです。

2 そのように、真理にこだわるよりも大切なことがあると主張した論者として、リチャード・ローティ(1931・2007)がいます。彼は、現代アメリカを代表する哲学者の一人で(注1)プラグマティズムの立場をとった論客として知られています。哲学以外にも政治学などについても、様々な発言をして多くの著作を残し、広く活躍した人物です。

3 彼は『偶然性・アイロニー・連帯』という著作の中で、哲学や倫理学において真理や正解というものにこだわる人たちは「大事なことを見落としている」と主張します。正解にこだわるという態度は現に傷ついている人を前にして、「なぜ人を傷つけてはならないのだろうか」という問いを立てて、それに対する十分な根拠のある理論的な解答とは何だろうか、と考え始めるようなものです。自分の行動が道徳的に絶対に正しい正解かどうか、そんなことを気にするよりも、「つらかったね」と目の前の人に声をかける方がよっぽど大事でしょう。そして、それは「人に優しくするのは良いこと」というのが真理だから、正解だから、優しくする、ということではありません。ただ、目の前の人が傷ついているから、その人が助けを必要としているから、なのです。

4 実際のところ、優しくすることを絶対的に正当化する必然的な根拠などありませんし、必要ありません。ただ、目の前の人には助けを求めており、私たちはその人を助けたいと思う。確かに、それは偶然でしかなく、すべての人にそれを期待することはできないかもしれない。それでも、私たちの多くは自分たちの良心の声に従うし、子どもたちを優しい性格に育てようとする。これまでもそうやってきたし、できるかぎりそれを続けていく。それ以上の反省や、真理の探究など不要だとローティは言うのです。したがって、正解探しなんかよりも、誰かが困っているのではないか、彼らをどうすれば助けられるか、ということに対する感受性を持つとうとする方がずっと重要なのです。

5 しかし、真理にこだわることをやめると、私たちの生活はどのようなことになるでしょうか。それこそ、A ことに抵抗がなくなり、フエイクニュースが溢(あふ)れる不確かな情報のなかで暮らさねばならなくなりそうな気がします。

6 ローティはしかし、そんなことにはならないと考えています。たとえば、真理にこだわる人たちの方こそ、真理を外していることを恐れ

るあまり、自分は真理にたどりついているということに固執しがちです。そして自分は絶対に正しい、相手は間違っている、と自分勝手な判断を下して、決して誤りを認めません。

7 他方で、真理かどうかにかかわらずのをやめれば、私たちは自分の考えが絶対に正しいという考えを離れることができます。私たちの答えは常に^a暫定的なものではありませんし、それを自覚すると、結果として、よりのケンキョになることができます。それはインターネット上でよく見られるような、自分を絶対的に正しい正義と思い込んで、相手に誹謗中傷の言葉を投げつける態度とはまったく異なっています。

8 また、このことは同時に、常識と言われるものに疑いを抱く姿勢にもつながります。普段、私たちの社会のなかで常識というものは非常に強い力を持ち、あたかも絶対的な真理であるかのように君臨しています。「普通はそんなことしない」とか「それって常識外れだよ」という非難の言葉の影響力を考えると、まさに常識が正解を決定する力をもっているかのようなのです。

9 もちろん、常識が役に立つ場面も多々あります。共同生活を営むに当たって、あまりにも常識に外れたことばかりされると困ってしまいます。しかし、²常識が凶器となつて誰かを傷つけてしまうこともあります。そんな格好をするのは常識外れだといって服装の趣味などを否定された人は、これから先、自分の好みを押し殺して周りに合わせた無難な服だけを着るようになってしまいかもしれません。

10 常識は何か明確に書かれたものではなく、ふわつとしたもので、個人や集団の解釈によつて濫用されがちです。気に入らない誰かを排斥するためにも、常識という言葉は使われてしまうのです。

11 他方で、真理にこだわらない人は、常識が真理でありいつでも正解を提供してくれる、などとは考えません。むしろ、自分自身の考えも常識も、絶対的なものではないと分かっているからこそ、あらゆる書物や人の言葉を助言としてケンキョに受け取ることができるようになります。そうして現在可能な限り、でより良い考えを生み出そうという希望を抱くのです。

12 したがって、真理へのこだわりを捨てたとしても、嘘への抵抗が減るわけではありません。むしろ、自分の発言は的外れかもしれない、だからこそ、少しでもより正確なことを言うように心がけよう、というふうにならざるを得ないのです。

13 さらに、真理や正解にこだわることをやめた場合、より重要なこととして、私たちは、自分たちと自分たちの世界の偶然性と傷つきやすさを意識するようになります。というのも、「自分たちのしていることが本当に正しいことかどうか分からない」と認めるなかで、私たちは現在正しいと思われるものが偶然の④サンプルでしかないことを認めることになるからです。前の項でも述べたように、人に優しくすることは唯一絶対の正解ではありません。私たちはたまたま困っている人を見捨てられないだけです。

14 少し複雑なので順を追って説明していきます。まず「人を傷つけてはいけない」が必然的な真理などではなく、人々によつて偶然、守

られているルールに過ぎないと強く意識してみてください。私たちの平穏な生活は悪漢のナイフ一つで、簡単に失われてしまいます。それは今のあなたには起きていないかもしれませんが。しかし、それが起きていないのは偶然に過ぎません。明日にはどうなるかわかりません。今日は偶然起きなかったかもしれないませんが、明日はそれが起きるかもしれないのです。

15 自分たちを守ってくれているものが、絶対的なものではないことを理解したなら、私たちはいやおうなく自分の体と心の脆弱^{ぜいじやく}さを意識させられます。ローティは(注2) ジョージ・オーウェルの『1984』を引いて次のように述べます。

オーウェルのおかげで私たちが理解できるのは、ヨーロッパにおける支配権が、虐げられた者たちを憐^{あわ}れみ、人間の平等を夢見る人々の手に渡ったのはたまたま生じたことであり、世界がそうした感受性や観念をまったくもたない人々によつて支配される羽目に陥る事態もたまたま起こりうるということである。

『偶然性・アイロニー・連帯』

16 『1984』の世界はこの世界とは違う歴史をたどり、そこでは全体主義の国家が世界を支配しています。人々の生活は⑥カンシされていて自由はなく、党に逆らえば考えを改めるまで拷問を受けることになります。

17 この作品はフィクションですが、無視できないリアリティをもっています。すなわち、ほんの少しの偶然で、そちら側の世界が B になっていたかもしれない、と思わせる力をもっています。私たちは、そして私たちの社会はそれだけ脆弱なものの上に立っています。現在の世界がそうならないのは、たまたまそうだということに過ぎません。しかし、その偶然性と脆弱性から目を背けて、必然的で普遍的な真理としての人権や、人間性なるものを発見しようとすることは、結局、ありもしない何かを探して、路頭^{ろづ}に迷うことを意味します。

18 私たちは自分たちが今いるところから——周りの人たちが置かれている状況を想像し、彼らが苦しんでいるなら、その苦しみを減らしたいと願うという、私たちがたまたま今、もっているその感覚から——そうした人権や制度を創っていくことしかできません。そして、それらには絶対的な根拠などないからこそ、その制度が十分なものかを常に疑い、それをなんとかして維持し⑦コウシンしていくのです。

19 したがって、ローティに言わせれば、重要なのは、まず、真理や正解にこだわるのをやめること、たとえ自分自身の言葉であつても、常に決定的なものとは考えないことです。その上で、ケンキョに他人の言葉や様々な書物などから学びながら、今の自分から手の届く範囲の人々の間で「連帯」を結んでいくことこそ最も大事、となります。

20

3 私たちに必要なのは、いつかは真理のもとで悲劇のない永遠に正しい社会が生まれるという希望にすぎることではありません。そんな真理はどこにもないのです。直接に苦しみや残酷さと向き合い、それらを減らせる社会と制度を人々の間の同意に基づいて創っていくところこそ、私たちがなさねばならないことなのです。

21

さて、ローティが言う通り、私たちは真理へのこだわりをきっぱりと捨てた方がいいのでしょうか。そうとも限りません。真理を探究し、それをもとに人と対話していくことには、他ではダイ^④タイ^⑤できない、4 欠くことができない何かが含まれている、そう考えることもできます。そこで、本節ではそうした考え方として、信頼ということから真理を追究することの大切さを説く考え方を見ていきたいと思っています。

22

とはいえ、少し長い紹介になりますので、先に結論を述べておきましょう。こちらの立場は、真摯に真理を探究し、他者にも誠実に真理を告げようとするのが、結果として、自分自身を信頼に足るものとし、アイデンティティを確立したものにしていくことにつながる主張します。

23

逆に言えば、真理を蔑ろにする人は、他人から信頼されず、自分自身も信頼できなくなり、自分を見失ってしまいます。他者の苦しみと向き合うことももちろん大切ですが、そもそも自分と向き合うことができていなければ、その苦しみとともに立ち向かうことはできないのです。

(佐藤岳詩『「倫理の問題」とは何か メタ倫理学から考える』より)

(注1) プラグマティズム ―― 実用主義。

(注2) ジョージ・オーウェル ―― イギリスの作家(一九〇三―一九五〇)。

問 1 二重傍線部㉖㉗㉘と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。
 解答番号は ㉖ 1、㉗ 2、㉘ 3、㉙ 4、㉚ 5。

㉖ ケンキョ

- ① 仮説のケンシヨウを重ねる
- ② 目の前にケンソな山が連なる
- ③ 礼節ケンジヨウの精神につとめる
- ④ ケンバイ機で切符を買う
- ⑤ あの選手の技能はまだケンザイだ

㉗ サンブツ

- ① 港のサンバシに腰をかける
- ② 石油をサンシュツする
- ③ 大企業のサンカに入る
- ④ 教会でサンビ歌を歌う
- ⑤ 金属がサンカする

㉘ カンシ

- ① 平日の遊園地はカンサンとしていた
- ② ついに王者となりムカンを脱した
- ③ あの演技はアツカンであった
- ④ 最初に決めた方針をカンテツする
- ⑤ 年度末に会計カンサを行う

㊦ コウシン

- ① コウイ室で着がえる
② どちらもコウオツつけがたい
③ 能力のある人物をコウグウする
④ 過去最高のコウギョウ収入を記録する
⑤ コウセキが認められて昇進する

㊧ ダイタイ

- ① 新勢力がタイトウする
② 職務タイマンで懲戒解雇する
③ カンガル―はユウタイ類に分類される
④ コウタイしながら長い距離を運転する
⑤ 新時代のタイドウを感じる

問2 二重傍線部 a、b の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は a 6、b 7。

- | a | b |
|-------|-----------|
| ① 断続的 | ① 苦しむ |
| ② 主観的 | ② 探し続ける |
| ③ 一時的 | ③ 我を忘れる |
| ④ 流動的 | ④ 困りはてる |
| ⑤ 否定的 | ⑤ 一生懸命になる |

問3 空欄

、
A
B
を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。
解答番号はA 、B .

- | | | | | | |
|---|--------|--------|---------|----------|------------|
| A | ① 嘘をつく | ② 人を騙す | ③ 真理を探す | ④ 自分が傷つく | ⑤ 正確な情報を得る |
| B | ① 虚構 | ② 強固 | ③ 現実 | ④ 脆弱 | ⑤ 真実 |

問4

本文を四つの段落に分けるとすると、二つ目の段落はどこから始まるのか。その番号として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は .

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| ① <input type="text" value="3"/> | ② <input type="text" value="4"/> | ③ <input type="text" value="5"/> | ④ <input type="text" value="8"/> | ⑤ <input type="text" value="9"/> |
|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|

問5

傍線部1「大事なことを見落としている」とあるが、「大事なこと」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は .

- | |
|------------------------------|
| ① 人間には、真理の探究が必要であるということ。 |
| ② 真理は普遍的で、変わることがないということ。 |
| ③ 真理には、存在するはずの根拠が存在しないということ。 |
| ④ 自己の行いの是非について、自省し続けるということ。 |
| ⑤ 目の前に傷つき、助けを求めている人がいるということ。 |

問6

傍線部2「常識が凶器となって誰かを傷つけてしまう」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 12。

- ① 常識が正解であるかのように錯覚されることで、他者が傷ついている状況が見えにくくなるということ。
- ② 本当は常識の方が間違っているのに、絶対化された常識によって他者の常識が攻撃されてしまうということ。
- ③ 常識が、あたかも社会のなかで明確に規定され、絶対的な正義であるかのように君臨してしまうということ。
- ④ 常識から外れるものを有無を言わずに否定することで、他者に辛い思いをさせてしまうということ。
- ⑤ 悪意ある解釈をすることにより、常識が気に入らない人間を排除するための手段になってしまうということ。

問7

傍線部3「私たちに必要なのは、いつかは真理のもとで悲劇のない永遠に正しい社会が生まれるという希望にすぎることではありません」とあるが、私たちに必要なのはどうか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 13。

- ① 私たちに必要なのは、苦しみや悲しみをなくす社会を創ることによって、それぞれが考える、楽しい生き方を実現できるようにしていくことである。
- ② 私たちに必要なのは、苦しみを減らすための人権や制度を創ることであり、しかもそれが、世界の偶然性や脆弱性による影響を受けないようにすることである。
- ③ 私たちに必要なのは、一人一人が自分の周りにいる人々との間で連帯を結ぶことにより、それぞれの集団が協力し合いながら今ある制度を維持することである。
- ④ 私たちに必要なのは、他人の言葉や書物などから学んで得た真理を活用して、不十分な制度や社会をより良いものへと作り変えていくことである。
- ⑤ 私たちに必要なのは、たまたま今、苦しんでいる人の苦しみを減らしたいと願うその感覚から、苦しみを少なくする社会や制度を創り続けていくことである。

問 8

傍線部 4「欠くことができない何か」とあるが、それはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① 真理の探究により実現される、人間の不幸や苦しみが排除された世界。
- ② 真理の探究やそれをもとにした対話が生む、自己への信頼や自己の確立。
- ③ 真理の探究が教えてくれる、真理の絶対性や自己のアイデンティティ。
- ④ 真理の探究が示す、自己への向き合い方と正しい社会のあり方。
- ⑤ 真理の探究により明らかとなる、他者の苦しみと向き合う方法。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

本書ではここまで、一般にすこぶる評判の悪い感情であり、まるで諸悪の根源であるかのように言われる嫉妬感情について、様々な角度から考察してきた。確かに嫉妬心はとても厄介なものであるから、他人からの嫉妬とも、他人を嫉妬することからも、できればかわらずに暮らしたい。けれど、心持ち一つで嫉妬心が魔法のように消えてしまえばいいが、現実にはそうはいかない。とりわけ人々の平等が前提となる民主社会ではなおさらである。本書では、嫉妬感情のそうした両義的な性格にできるだけ注意を払ってきたつもりである。

「あなたはあなたのままでいい」であるとか、「他人と比較するのはやめよう」などと諭す嫉妬の対処法のような自己啓発本が巷には溢れている。【I】こうした言説のほとんどはすいぶんと無邪気なものだが、だからと言って無害なものとは言えない。この種の提言は、現実の嫉妬から目をそむけ、私たちがそれに真剣に向き合うことを妨げることがある。嫉妬心をきれいさっぱりなくすることができるかのように吹聴し、あ 一部の人がときに罹患する熱病のように考えてしまうと、いずれ思わぬしつぺ返しを喰らうことになるだろう。

嫉妬に何かしら意味があるとすれば、それはこの感情が「私は何者であるか」を教えてくれるからである。たいていの場合、私の嫉妬は他人には共感されない、私の嫉妬は私だけのものである。【II】私は誰の何に嫉妬しているのか、なぜ彼や彼女に嫉妬してしまうのか。【III】確かにそれは客観的な自己像とは言えないかもしれないが、ときに自分でも気づかないもう一人の自分を開示してくれることがあるのだ。

本書では最後に、こうしたやり過ぎることのできない嫉妬心とのかかわり方について考えてみたい。【IV】嫉妬心が消えないという前提に立つことから、いったいどのような処方箋が導けるだろうか。【V】

まず、嫉妬との向き合い方として、嫉妬の効用とでも言うべき側面に注目することができる。嫉妬のエネルギーは必ずしも社会を墮落させる方向ばかりに働くわけではない。それは不正を告発したり、不平等を正すなど、世直しのエネルギーとして発散されることも原理上ありうる（これは^{（注1）}ベーコンが公的な嫉妬に認めた効用でもある）。これこそ、嫉妬なき社会を語るものが見落としている点である。あるところで^{（注2）}ヘルムート・シエクは正しくこう指摘している。

嫉妬は政治的に中立である。それは保守的な政府や自由主義の政府に向くこともあれば、（……）社会主義の政府にも等しく向けられる。

たとえば、^{（注3）}左派ポピュリズムという政治戦略には、こうした嫉妬のエネルギーを利用したところがある。この戦略は、政治的に疎外された人々の声を凝集し、エリートや既得権益層らにぶつけようとするものだ。これを唱える人々のあいだには、人々の不満が差別的な勢力に

扇動されるがままになっており、それが憎悪となって社会的マイノリティに向かっているという切迫感がある。そのため、人々の怨嗟を別のところに向けさせることが必要になるのだ、と(シヤンタル・ムフ『左派ポピュリズムのために』山本圭・塩田潤訳、明石書店)。

確かに、嫉妬のエネルギーを向けさせることで、格差や不平等を是正するきっかけになることもありうるだろう。しかし、嫉妬を社会に解き放ったその先に、左派ポピュリズムが約束するような、^a進歩的で公正な社会が到来するというのはあまりに楽観的である。嫉妬心は都合よくコントロールできるものではないし、用が済めばさっぱりと退散してくれるものでもない。

それゆえ、左派ポピュリズム戦略はきわめて危ないゲームをしているように見える。たとえ嫉妬の扇動が現状の行き詰まりを一時的に^b打破することがあるとしても、その後^cひどい二日酔いに苦しむことはおそらく間違いない。

嫉妬に免疫のある社会とは、一体どのような社会だろうか。たとえば、多元的な価値に寛容な社会作りもまた、嫉妬に支配されないための対処法になる。価値観が一元化してしまうと、人々のあいだの差異や優劣が一発で

だけ優れているかの序列が明白になってしまい、社会は嫉妬で満ちてしまうだろう(たとえばSNSのフォロワー数には、そうした一元化する作用が強く働いている)。

ここでは、メリトクラシーについて考えてみよう。メリトクラシーとは、いわば能力による支配を正当化するイデオロギーであって、多くの場合、能力の有無や成績の出来不出来によつて人々に格差を承認させる考え方である。かりにあなたの生活が苦しいとすれば、それはあなたに能力が欠落しているからであり、それは人生の然るべき局面で適切な努力をしなかったからだ(だから我慢するのが当然だ)、というふうに。

近年、^(注4) マイケル・サンデルの議論をきっかけにこのメリトクラシーの問題点が認識されるようになっていく。サンデルによれば、メリトクラシーは不平等や格差を道徳的に正当化し、置き去りにされた人々に屈辱感を与えるものである。こうした考え方が行き過ぎると、

現代のアメリカ社会がそうであるように、エリートと庶民とのあいだに大きな分断が生まれてしまう。嫉妬や不満が蓄積されると、ときに思いもよらない怨恨の爆発が生じかねないし、実際にアメリカでは生じてしまった。したがって、マイケル・サンデルのメリトクラシー批判、および彼の提示する解決策——エリートの^d驕りを矯正し、労働の尊厳を取り戻すこと——は確かに重要な提言と言える(マイケル・サンデル『実力も運のうち——能力主義は正義か?』鬼澤忍訳、早川書房)。

そのため、こうした一元的な社会よりも、多元的な価値観を許容する社会のほうが、嫉妬に耐性のある社会になる可能性が高い。そのためには評価軸をなるべく多様化し、社会的な序列を分かりにくくすることが重要になる。^(注5) ロールズの批判者であり、^(注6) リバタリアニズムの思想家として知られる^(注7) ロバート・ノージックは次のように言う。

社会が自尊心の格差の普及を回避するもとも見込みのある方法は、諸次元の共通のウェイトづけを持たないことであり、その場合その社会は、様々な次元とウェイトづけの多様に異なっていくつものリストを持つことになる。この事は、各人が、自分が結構うま旨くやれる次元で他人も一部はそれを重要と考えてくれるものを見出し、そうして特異なものとしてでなく自分に有利な評価をする、というチャンスを高めるであろう。(ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』)

²ある次元における位置付けが低かったとしても、他の次元で挽回ばんかいできる機会が多く保障されていれば、人々の自尊心はある程度保たれる。
う 数学の成績が不良であったとしても、美術や音楽の評価が高ければ、かなりのところ慰められるだろう。

同じことが嫉妬についても言える。社会が価値あると見なす次元が多様であれば、安易な序列化が難しくなり、彼我の比較も容易ではなくなる。それが社会における嫉妬の爆発をいくぶんか抑制することになるのだ。

個人レベルでの嫉妬はどうだろうか。まず、嫉妬と折り合いをつける方法として、各人が倫理的な精神的態度を涵養かんようすることで嫉妬を乗り越えることが挙げられる。たとえば哲学者の三木清きよは嫉妬を克服するために「物を作れ」と言う。物を作ることで自信が生まれ、それが個性になるというのだ。三木はこう言っている。

嫉妬心をなくするために、自信を持つといわれる。だが自信はいかにして生ずるのであるか。自分で物を作ることによって。嫉妬からは何物も作られない。人間は物を作ることによって自己を作り、かくて個性になる。個性的な人間ほど嫉妬的でない。個性を離れて幸福が存在しないことはこの事実からも理解されるであろう。(三木清『人生論ノート 他二篇』へん)

作品作りに没頭すれば、他人との距離が生まれ、おのずと比較から遠ざかることになるだろう。創作を通じて培われた自信や個性は卑屈さを癒やし、個人的な満足をもたらすこともあるだろう。これは嫉妬の母である比較を拒絶し、³おのれの特異性に到達する道である。

しかし、これが本当に嫉妬を克服するかと言えばいささか心許こころもとない。自身を見つめ直すような作品には、新しい競争と嫉妬を生み出す可能性がつけねにあるからである。実際、芸術家のような人々こそ、誰よりも激しく嫉妬心との戦いを強いられていないだろうか。映画『アマデウス』のなかで、^(注8)モーツアルトの才能に誰よりも魅了され、妬みに狂ったのは、同じ作曲家の^(注9)サリエリではなかっただろうか。したがって、芸術への没頭は嫉妬に一時的な解決をもたらすかもしれないが、決してそれを終わらせるわけではなさそうだ。

むしろ、より見込みが高いのは「何もしないこと」のほうだろう。おそらく B だけが私たちを比較から遠ざけるように思われる。しかし、この解決は哲学的には興味深いが、身も蓋もないと言われてしまいそうだ。

多くの自己啓発本が指南してくれているように、嫉妬から確実に逃れる方法が一つだけある。それは比較をやめることだ。他人との比較さえしなければ嫉妬心が芽生えることはない。比較をやめたいなら競争から降りてみるのも一つの手だろう。だが、誰もが知っているように、比較をやめること、これが存外に難しい。

本書でも言及したように、SNSの普及は、間違いなく人々の嫉妬心と想像力を刺激している。インターネットを使って、私たちはたえず自分と他人の生活を比較するようになってしまった。だが、SNSの真の問題は、それが他人の生活の一部だけを切り取って見せることにある。私たちは流れてくるごくごく一部の見せかけ（フィクションと言ってもよい）を他人のリアルな生活と思い込んでしまうのだ。

なら逆に考えてみてはどうだろう。比較をやめられないなら、比較をとことん突き詰めてみるのだ。ある部分にだけ特化した半端な比較こそが、嫉妬心を膨らませているとすればどうだろうか。妬ましく思う優れた隣人をよくよく観察すると、思いもしなかった一面が見えてくるものだ。当たり前だが、完璧な人間などそうそういない。そのような意外な事実が目に入れば、あなたの嫉妬心もかなりのところ和らぐはずなのだ。比較をやめられないならあえて徹底してみることに、⁴ 逆説的ではあるが、これだけが嫉妬という怪物を宥める確実な方法であるように思われる。

さて、ここまで社会レベルと個人レベルで、嫉妬をコントロールする方法をいくつか列挙してきた。どれもそれなりに説得力があるようにも思うが、このうち万能なものは一つとしてないし、いずれか一つが正解ということでもない。むしろ、これら様々な方法を組み合わせつつ、嫉妬心を抑制するための仕掛けをあちこちに用意するべきなのだろう。ただし、そうしたとしても、嫉妬心が完全に社会から、あるいは私たちから消え去ることはないだろう。怒りや悲しみといった人間味ある感情がそうであるように、嫉妬もまた私たち人間の条件なのだから。

（山本圭『嫉妬論 民主社会に渦巻く情念を解剖する』より）

（注1） ベーコン —— フランシス・ベーコン。イギリスの哲学者・政治家（一五六一〜一六二六）。

（注2） ヘルムート・シェック —— オーストリア系ドイツ人の社会学者（一九二二〜一九九三）。

（注3） 左派ポピュリズム —— 現状を変革しようとする左派と、民衆の怒りをあおり統率するポピュリズムとが結びついた、政治的思想。

- (注4) マイケル・サンデル — アメリカ合衆国の政治哲学者・倫理学者（一九五三～）。
 (注5) ロールズ — ジョン・ロールズ。アメリカ合衆国の哲学者（一九二一～二〇〇二）。
 (注6) リバタリアニズム — 自由至上主義。
 (注7) ロバート・ノージック — アメリカ合衆国の哲学者（一九三八～二〇〇二）。
 (注8) モーツァルト — ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト。オーストリアの作曲家（一七五六一～一七九一）。
 (注9) サリエリ — アントニオ・サリエリ。イタリアの作曲家（一七五〇～一八二五）。

問1

空欄

あ

い

う

解答番号はあ 15、い 16、う 17。を補うのに、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- ① ただし ② たとえ ③ むしろ ④ まさに ⑤ あたかも

問2

二重傍線部 a、b の対義語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は a 18、b 19。

- | | | | | | |
|---|------|------|------|------|------|
| a | ① 滞留 | ② 後退 | ③ 休止 | ④ 退却 | ⑤ 撤退 |
| b | ① 維持 | ② 突破 | ③ 破壊 | ④ 停止 | ⑤ 保持 |

問3 空欄

A

B

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は A

20

、 B

21

。

A ① 絶対視

B ② 理想視

③ 可視化

④ 正当化

⑤ 標準化

B ① 無為

② 作為

③ 奉仕

④ 皮肉

⑤ 批判

問4 次の一文を挿入する場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。 解答番号は 22。

これは翻って、私がどういう人間であるか、私は誰と自分を比べているのか、私はどんな準拠集団のなかに自分を見出しているかを教えてくれるだろう。

①

【I】

②

【II】

③

【III】

④

【IV】

⑤

【V】

問5 傍線部1「ひどい二日酔いに苦しむ」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選
びなさい。解答番号は 23。

- ① 嫉妬を消すことはできても、それにより左派ポピュリズムが約束する進歩的かつ公正な社会が到来すると考えるのは早計だから。
- ② 嫉妬のコントロールは不可能であるため、結局、政治的に阻害された人々の憎悪は社会的マイノリティへと向かうから。
- ③ 完全にコントロールすることが困難であるからこそ、嫉妬は現状の行き詰まりを打破する可能性を秘めているから。
- ④ 嫉妬の扇動が一時的に現状を打破しても、方向を変えて解き放たれた嫉妬の強いエネルギーは、制御困難なまま残っているから。
- ⑤ 嫉妬は、世の中をよくしていくためのエネルギーとなる一方で、社会を墮落させるという側面もあわせもっているから。

問6 傍線部2「ある次元における位置付けが低かったとしても、他の次元で挽回できる機会が多く保障されていれば、人々の自尊心はある程度保たれる」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 24。

- ① 多元的な価値観の存在が、視野が狭くなりがちな人間の視野を広げていくことで、特定の事柄だけにこだわって自己評価するやり方を改めるきっかけになるということ。
- ② 多様な評価軸や社会的序列が存在した方が、一つの領域に固執するということがなくなるため、嫉妬の爆発が抑えられて自尊心を維持することができるようになるということ。
- ③ 別の分野で自分の誇りを取り戻すことができれば、自己と他者の比較を無意味にすることがなくなり、その結果、嫉妬に強い社会を作ることができるということ。
- ④ 嫉妬の原因にある、身分的階級や社会的序列をなくすには、一つの価値観だけに重きを置くのではなく、むしろ多元的な価値観を許容することが大事になってくるということ。
- ⑤ 安易な序列化や比較を難しくする多元的な価値観があると、自分の評価が低くない分野を探すことができるため、尊厳の維持が期待できるようになるということ。

問7 傍線部3「おのれの特異性」とあるが、それはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選
びなさい。解答番号は **25**。

- ① 他人との比較や嫉妬を無意味にする創作により与えられる、個人的で主観的な満足。
- ② 作品作りに集中した人間だけが習得できる、嫉妬心を克服していくための方法。
- ③ 嫉妬心の除去に役立つ創作により育てられる、道徳的で倫理的な精神や態度。
- ④ 個人レベルで嫉妬の爆発を抑えていくために誰もがするべき、作品作りへの没頭。
- ⑤ 作品作りへの没頭から得られる、自信や個性により培われた自分だけの特徴。

問8 傍線部4「逆説的ではあるが、これだけが嫉妬という怪物を宥める確実な方法であるように思われる」とあるが、それはどういうこ
とか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は **26**。

- ① 完璧な人間などいないという当たり前の事実が、自分と他者との比較により生まれる、異常に強迫的な嫉妬心を必ず和らげてくれる
ということ。
- ② 嫉妬の原因となる比較をやめず、むしろ他人の欠点が見つかるまで徹底することだけが、嫉妬というとても厄介な感情を鎮める確か
な方法だということ。
- ③ 嫉妬心を消すための万能な手法が存在しないという事実が、かえって心の闇に潜む嫉妬心を完全に消すための手がかりを教えてく
れるということ。
- ④ 他人と自分との無意味な比較をやめて人間をよく観察することだけが、諸悪の根源である嫉妬心をこの世から消す確かなやり方で
あるということ。
- ⑤ SNSの生活をリアルではなく、逆に作られたものと自覚することだけが、とめどなく増幅する嫉妬心の暴走をとめる唯一の手法
だということ。